

施策評価調書(29年度実績)

施策コード - 2 - (3)

政策体系	施策名	文化財・伝統文化の保存・活用・継承	所管部局名	教育庁	長期総合計画頁	153
	政策名	芸術文化による創造県おおいたの推進	関係部局名	教育庁		

【 . 主な取り組み】

取組			
取組項目	文化財・伝統文化の保存	文化財・伝統文化の活用	文化財・伝統文化の継承

【 . 目標指標】

指 標	関連する 取組	基準値		29年度			31年度	36年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
国・県指定の文化財数(件)		H26	894	910	920	101.1%	920	945						
県立歴史博物館・県立先哲史料館・埋蔵文化財センターの利用者数(万人)		H26	10.1	11.0	14.24	129.5%	11.3	11.5						

【 . 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
達成	地域に受け継がれてきた文化財の新たな指定や登録を推進したことにより、目標値を達成した。	達成
達成	新しく移転オープンした埋蔵文化財センターの開館記念イベントとして企画展と講演会を開催したことに加え、歴史博物館と先哲史料館において展示内容の充実や広報活動に努めたことにより、目標値を達成した。	

【 . 指標以外の観点からの評価】

取組	指標以外の観点からの評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産の認定に向け、国・県指定文化財を整備(5件)するとともに、市町村をつなぐ文化・伝統のストーリー化により地域の活性化が図られた。 ・九州北部豪雨と台風第18号で被災した国・県指定文化財16件の復旧を支援し、H29年度末時点で13件の復旧を完了した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・六郷満山開山1300年祭の記念事業である「鬼会面 - 鬼と仏が福を招く -」を開催し、国東半島の魅力を発信した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍している人々を小・中学校の授業に外部講師として派遣し、芸術文化や伝統芸能などの体験活動を通して児童生徒の郷土に対する誇りや愛着心を養った(小・中学校10校に14人を派遣)。 ・新しく移転オープンした埋蔵文化財センターに体験学習館を新設し、体験学習を通じて文化財に親しみ、理解を深める機会を充実した。 ・県内遺跡情報のデータベース化により、貴重な資料を適切に管理し、確実に次世代に継承するための基盤を整備した。

【 . 施策を構成する主要事業】

取組	事業名(29年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	30年度の方向性	
	日本遺産認定推進事業	36,890	B	継続・見直し	269
	豊の国埋蔵文化財魅力発信事業	24,070	A	終了	268

【 . 施策に対する意見・提言】

<p>平成29年度第1回大分県文化財保護審議会(H29.8)</p> <p>・国が新しく指定した重要文化財等を東京国立博物館に展示するように、県でも、新しく指定した文化財を歴史博物館や埋蔵文化財センターに展示することを考えてもらいたい。</p>	
--	--

【 . 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財や伝統文化が将来世代に確実に引き継がれていくよう、引き続き指定・登録制度を活用し、適切に保存・管理する体制づくりを推進する。 ・歴史博物館や埋蔵文化財センター、国や大学の研究機関等との連携により、職員の文化財の修復・保存に関する技術のスキルアップを図る。 ・国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催による県民の文化に対する興味・関心の高まりを活かし、歴史博物館・先哲史料館・埋蔵文化財センターが連携して企画展を開催するなど、県民が文化財・伝統文化に親しみ、理解を深める機会の充実を図る。 ・地域の人々の精神的拠り所でもある伝統芸能への理解を促進するため、各種補助制度を活用して用具等の新調を支援するとともに、発表機会等の充実を図る。 ・日本遺産の認定に向けて文化財・伝統文化をストーリー化し、広域的な連携と活用を進める市町村の取組を支援することにより、地域活性化につながる新たな観光素材の創出や郷土愛の醸成を図る。 ・各種広報番組や教育庁チャンネル等を活用し、文化財・伝統文化についての積極的な情報発信を行う。